



立石 富男 鹿屋市立図書館長

家庭と学校に求められるもの

もう一つ言われているのは、家庭での親の姿勢です。親が家で本を読まない、テレビばかり見ている、というのは子どもが進んで本を取る気にはなれないでしょう。子どもにとって親の影響は大きいのです。一緒に本を読むのが無理ならせめて三十分テレビを消して、子どもと会話してほしいものです。

また学校の動きも少し気になります。先生は子どもに本好きになってもらいたいため

に、一生懸命に読書の効用を口にし、たくさん本を読ませようとしています。確かに読書はすばらしいし、先生の気持ちも理解できます。しかし、押しつけの成果主義になったら逆効果です。何十人もの子どもを相手にする先生のジレンマはよく分かりますが、子どもの自発性を根気強く待つしかありません。

読み聞かせは本好きになるきっかけのトップ

そういう意味で、最近の先生方の姿勢を評価したいもの

があります。先生方が読み聞かせをやるようになっていくことです。子どもが本好きになるきっかけは読み聞かせがトップだそうです。教室で読み聞かせをやり、感動した本のことを熱く話していけば、子どもたちの心に届くに違いありません。教師の影響もまた大きいのです。

学校等での読み聞かせは地域の方々も熱心に行っています。いわゆるボランティアの読み聞かせグループです。現在、市内にはそういうグループが二十七あります。市立図書館ではそれらの団体に呼びかけて年に三回「読書グループ連絡会」を開いています。

目的は情報交換や読み聞かせの技術向上です。各グループの活動と課題を述べ合い、推薦図書の紹介をし、いくつかのグループに事例発表をしてもらいます。市外から講師を招いて研修をすることもあります。そういう中で各グループが親交を深め、腕を磨いていきます。



図書館の使命は、端的に言えば本好きな子どもを増やすことです。本は一生の友だち、宝。宇宙の無限の広がりを持つています。自ら求めていく限り裏切られることはありません。受験等で一時離れたとしても、真に読書の喜びを知っていれば再び本と向き合うようになります。もちろん、人生設計の伴侶にも。子どもたちにそういうことを伝えたいために、図書館はおはなし会や「読書グループ連絡会」等を開いています。今後も子どもたちに接するボランティアをサポートしていきます。そして、ふさわしい環境づくりに努力していきます。と思っています。



■市立図書館の学習室が新しくなりました
ぜひ、ご利用ください

市立図書館では、これまで四人掛用の長机に替えて、一人掛用の机を30脚、新しく設置しました。個別に学習できるサイドパネルつきの机ですので、これまでよりも集中して学習に取り組んでいただけます。

ぜひ、ご利用ください。



Reading Ability

この夏、親子で読書力を身につけよう

読書は想像力の海

活字離れ、読書離れが言われて久しくなります。近年は特に子どもにその傾向が強いようです。そのために学校を始め、いろいろな関係機関が子どもに自ら本を取ってもらおうと努力しています。

子どもの本離れの原因はいろいろ言われています。一番大きいのは、やはりテレビの

影響でしょう。テレビはただスイッチを入れさえすれば情報が一方的に流れてきます。こんな楽なことはありません。考えなくて済みます。だから想像力が身につきません。読書はその逆です。想像力の海で遊ぶことになりま

す。映像と活字の根本的な違いですが、その差は大きなものです。



本は一生の友だち、宇宙だ